

グリーンポトスニュース

50号：2001年10月

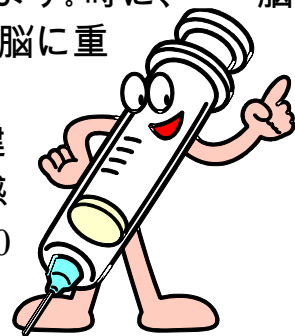
お陰様で、このグリーンポトスニュースも今月で50号になります。開業直後より、月一回、出版してきました。これからも、季節の話題、皆さんが知りたい話題などを中心に出版していこうと思

インフルエンザ 予防接種

いますので、よろしく御願致します。今月の話題は『インフルエンザ予防接種』です。

インフルエンザというと、「38～39℃の熱が出て、4～5日寝ていなければならない」こんなイメージがあるのではないのでしょうか。これは、健康成人の症状です。39℃の高熱となれば、健康成人でも、かなりの体力を消耗しますので、これが、体力のない乳幼児や高齢者ではどうでしょうか。生命に危険が及びます。3年前の大流行時、老人ホームなどで、高齢者が集団感染し、多くの方が犠牲になりました。高齢者の場合、高熱に体力が耐え切れず、肺炎を合併します。不幸な場合、死亡するケースもあります。また、乳幼児は、免疫が未熟なため、重症化します。時に、脳炎を起こします。インフルエンザ脳炎は、時に死に至りますし、脳に重篤な後遺症を残すことがあります。

インフルエンザ予防注射は、これらの合併症を予防します。健康成人の場合、感染予防効果は70～90%です。老人ホームでの感染防止効果は、30～40%になりますが、入院を防止する効果は50～60%、死亡を防止する効果は80%に及びます。乳幼児においては、予防接種をした場合、脳炎は、発生していません。



インフルエンザになれば、学校や会社を休まなくてはなりません。仕事を休めない方や、特に受験生は、1～2月は受験にとって一番重要な時期になりますので、必ず接種しましょう。体力のない高齢者は、肺炎にならないため、免疫力が不完全な乳幼児は、脳炎にならないためにぜひ、インフルエンザ予防接種をしましょう。

インフルエンザウイルスは、毎年、抗原型を変えます。現在、WHO(世界保健機関)が中心に国際的な協力の中で、ウイルスを同定するため、的中率が上がってきています。ここ数年は、ワクチンと流行株は一致しております。また、合併症も低く抑えられていますので、安心して接種してください。かめざわクリニックでは、毎年10月より接種をしております。気軽にご相談ください

麻酔科(ペインクリニック)・内科・アレルギー科・リハビリテーション科・小児科



編集・発行 **かめざわクリニック**
～ 痛みの診療所～

院長 亀澤 隆司
春日井市東野町 10-12-2
TEL (0568) 56-5050

裏面もご覧ください

インフルエンザは、主に冬に流行する熱性の疾患です。予防接種は、以前、小中学生を中心に集団接種を行ってきました。しかし、集団感染を防止できないという理由などで、中止してしまいました。そのため、我が国のワクチン生成能力は極端に落ち、大流行に対応できないようになりました。3年前の大流行は、記憶に新しいのではないのでしょうか。

インフルエンザの怖いところは、死に至る病気であることです。3年前の流行で、体力のない乳幼児や高齢者が死亡しました。乳幼児の死因は、何といたってもインフルエンザ脳炎です。死に至らずも、ウイルスにより重篤な後遺症が残ったりします。高齢者は体力がないため、肺炎を起こします。そのため、入院や不幸な場合、死に至ります。アメリカなどの先進国では、インフルエンザにより、年に10～20万人が入院し、1～4万人も死亡しているとの報告があります。日本でも、同じような状況であると考えられています。

インフルエンザウイルスは、毎年、抗原型を変えるので、予測するのが大変でした。現在は、WHO(世界保健機関)が中心に国際的な協力の中で、ウイルスを同定するため、的中率が上がってきています。ここ数年は、ワクチンと流行株は一致しております。

予防接種の有効性は、ワクチン株と流行株が一致した場合、その感染防止効果は健康成人では、70～90%認められています。老人ホームにおける感染防止効果は、30～40%と低下しますが、入院を防止する効果は50～60%、死亡を防止する効果は80%に認められています。ですから、必ず、接種してください。

かめざわクリニックでは、10月よりインフルエンザ予防接種を実施しますので、ご相談ください。

麻酔科(ペインクリニック)・内科・アレルギー科・リハビリテーション科・小児科



編集・発行 **かめざわクリニック**
～ 痛みの診療所～

院長 亀澤 隆司
春日井市東野町 10-12-2
TEL (0568) 56-5050

裏面もご覧ください